

発刊によせて

発足後13年が経過した教育史編さん研究会は、これまで様々な教育関係資料の発掘・翻刻・編集・刊行に努めてまいりました。

そして市民の方々をはじめ、教育関係者に教育史の一端を知って頂き、ご活用頂いておりますことは誠に喜びに耐えません。

教育史の編さんは、資料の収集から聞き取り、整理・検討・保存など、その一連の取り組みに多くの時間と労力を必要とするものでありますが、その価値は計り知れないものがあります。

今回発行した「学童疎開受け入れの思い出」は、太平洋戦争時、本土爆撃が必至の情勢から進められた学童集団疎開における綾瀬の受け入れの様子をまとめたものであり、当時の学童疎開に係わった先生方の具体的に貴重なお話を座談会の中で語って頂いた内容に加えて、綾瀬村国民学校の資料として残されていた学童疎開関係書類の翻刻版を掲載したことで、その当時の様子を一層細かく知って頂くことができます。

綾瀬市教育研究所 所長 内藤 和子

ものと思います。

確かに半世紀以上も前の出来事になりますが、座談会では父母のひざもとを離れた集団生活の中で、今までと違った疎开学童の勉強の様子。貧しい食生活、慣れない勤労作業などで郷愁をそそられた子ども達の姿。また、大人達の援助、苦労なども良く知ることができ、そうした状況の中で戦争によって一時失われていった教育機能が窺い知れると同時に、今以上に地域の連帯や人と人とのつながりなど、当時の地域環境や人間関係がよく見てとれます。

この学童疎開は、教育史の上でも未曾有の出来事であり、本冊子は、その当時の状況を知ることの出来る貴重な資料として、非常に価値の高いものとなっております。ぜひ一人でも多くの方々に活用して頂けることを願ってやみません。

終わりに、本書の刊行にあたり、座談会に出席していただいた方々と編集・執筆にあたられた各委員の皆様には深甚なる感謝の意を表して発刊のことばといたします。